

■主役は俺だー2025年秋⑥

□卯野 優翔 (うの・ゆうと) 帯広畜産大4年 OL/DL

昨季、屈辱の最下位となり、入れ替え戦に勝って1部の座を死守した帯広畜産大カウボーイズ。再建の年の今季、新入生9人を含めて選手21人で臨む新チームの主将として「フィールドの中からも外からも声の出るチーム。上級生も下級生も関係なくフィールドで言い合えるチーム」を目標に掲げた。昨季、試合で劣勢になった時にチームの元気が無くなり、巻き返しが出来なかった反省からだ。

兵庫・洲本高では硬式野球部の二塁手。強豪ぞろいの兵庫県予選でベスト16まで進んだ。「牛の勉強をしたかった」と帯広畜産大を選び、「新しいスポーツをやりたかった」とアメフト部に入った。WRとDBから始まったポジションは、チーム事情もあって「だんだん中に入ってきた」と言い、昨季の入れ替え戦ではLBとして値千金のパスインターセプトも決めた。今季は173センチ、85キロの鍛え込んだ体でOLとDLを務める。WR/DB/Kの桂田陽向、OL/DLの西村駿佑、OL/DL佐々響己とともに4人の4年生でチーム力の底上げに励む。



2試合を行った今春のオープン戦は釧路公立大に20-36、東京農業大に35-12。釧路公立大戦では第4QにRB鳶坂健之介(1年)とQB安澤十野(3年)のラン、CB岡田優人(3年)のインターセプトリターン、卯野のインターセプトなどで一挙に20点を奪って追い上げた。東京農業大戦では先制を許したが、RB宗像海斗(2年)とQB桂田のラン、WR後藤永(2年)のレシーブなどで逆転勝ちした。期待の下級生が着実に成長し、チーム再建の手ごたえを実感できた。

8月24日の北海道学生選手権開幕戦は連覇を狙う北海学園大が相手だが、「伝統のランを中心に、相手に的を絞らせないオフェンスを。ディフェンスは勝負所で思い切りよく」と卯野主将。「学園を倒して勢いに乗りたい」と意気込む。2015年の大会では、北海道大に次ぐ準優勝を果たした実績を持つ帯広畜産大。「去年は釧路公立大にやられた。今年は俺らがやる」との言葉に力がこもった。（塚田博）

〈プロフィール〉

2003年11月25日、兵庫・洲本生まれ。畜産学部畜産学科4年。乳牛の繁殖を研究する。夢は地元・淡路島で肉牛を飼育すること。